# 『エネルギー・環境問題の国際動向を考える』講演会

## 講演１　福島後の世界の原子力動向

講師　小林　雅治　氏（社団法人日本原子力産業協会 国際部 マネージャー）

講師略歴

昭和24年生まれ、京都大学工学部修士課程卒後、(社)日本原子力産業会議入社(2006年より日本原子力産業協会に改称)。情報課主任、企画部課長、海外業務部次長、国際部長などを経て現職。2000年より約2年半、原子力安全委員会事務局に出向。内外の原子力発電開発動向の調査･出版、政策推進活動（原子力開発利用、放射線利用、人材確保・養成)、原産年次大会の準備･運営、国際協力・交流(ロシア、中国、台湾、韓国、ドイツ、フランス等）に従事。

講演概要

福島第一原子力発電所事故は、国内外に極めて大きな影響を与えた。ドイツ、スイス、イタリアが脱原子力政策に転じたとして注目を集めた。一方、世界の原子力動向を眺めた場合、フランス、ロシア、英国、米国は、エネルギーの安定供給や気候変動対策などから、原子力を重要な選択肢と位置づけている。中国やインドなども、福島事故の影響で一時的なスローダウンがあるにしても、野心的な原子力計画を推進している。国際原子力機関（IAEA）は2011年9月発表の資料で、世界の原子力発電規模が、2010年の3億7530万kWから、2030年には5億100万kW（低予測）～7億4600万kW（高予測）に増大すると予測している。これはその前年9月の発表に比べて若干下方修正されているが、原子力発電の拡大傾向は続いている。同じくIAEAによれば、現在、運転中の原子力発電所を持たないが新規導入を検討・計画中の国が約65カ国で、うち25カ国が2030年迄の原子力発電所の運転を目指しているという。本講演では、このような福島後の海外諸国の原子力開発動向を幅広く概観し、我が国の原子力・エネルギー政策の議論の参考に資する。